様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月　６日現在

機関番号：32702
研究種目：若手研究（A）
研究期間：2008～2011
課題番号：20683007
研究課題名（和文）　慢性抑うつの来談者中心的認知行動療法の基礎研究

研究課題名（英文）　The basic study about client centered cognitive behavior therapy for chronic depression.

研究代表者
杉山　崇（Sugiyama Takashi）
神奈川大学・人間科学部・准教授
研究者番号：40350821

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学
キーワード：抑うつ，被受容感，来談者中心療法，認知行動療法，心理－社会過程

１．研究計画の概要

慢性の抑うつでは，抑うつ認知に没入するあまり他者に配慮する余裕を失わせて人間関係を悪化させ，そのことが再び抑うつ認知を増強するという心理－社会過程を伴うことが多い。認知行動療法は認知と行動の最適化を目指すが，抑うつ認知への没頭を軽減する治療関係における安心感の効果を活用した来談者中心療法の方法および人間観との組み合わせが望ましいことが研究代表者が若手研究（B）の助成で行った研究で示唆された。そこで，この新しい心理療法的アプローチに関する基礎的な研究を行う。

２．研究の進捗状況

（1）指導者レベルの臨床心理士７名に PAC 分析を用いたインタビューを行い，治療関係のうまい使い方に関する質的検討を行った結果，各臨床心理士に共通する要因として，治療関係の形成において情緒的な交流とクライエントへのセラピスト側の配慮に関連するクラスターが見出されることがわかった。一方で，関係形成後の展開に影響する治療関係への配慮は影響を受けたとする学派によって傾向が異なる可能性が示唆された。

（2）標準化した表情刺激を作成し，T.Millon の類型化したパーソナリティのスタイルによる各刺激への情動反応の違いを検討したところ，同一の表情刺激を用いても，その表情への反応はパーソナリティによって異なることが示唆された。このことから，セラピストの態度が同じであってもその態度からクライエントが受け取るセラピストの情緒はクライエントのパーソナリティによって異なる可能性が示唆されたと考えられる。

（３）来談者中心的認知行動療法の手続きから，認知再構成法とセラピストの態度に関する部分を体系化して，グループで実施できるプログラムを構成した。抑うつ傾向を改善したいという希望を持つ学生を募り準臨床群を設定し，当該プログラムを施行するグループワークを行い，効果検討を行ったところ，本プログラムは被受容感を高める効果があることが示唆された。自由記述から効果要因を検討すると，グループメンバーの来談者中心療法的な態度の効果への言及が多く，来談者中心療法の治療的態度の有効性が示唆されたと言える。

（４）本心理療法を活用した臨床群に対する事例研究を実施し，日本心理臨床学会，日本心理学会などの学術団体の大会で議論を行った。

（５）基礎理論をさらに生成するために，中心概念である被受容感と C.Cloninger 理論におけるパーソナリティの７因子，および自己本来感，自尊感情，自己開示の関係を検討する質問紙調査を行った。結果は解析中である。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

事例研究および質問紙調査は協力者が予想以上に集まったこともあり，当初の計画以上に進んだ。一方で 2008 年のタイ国の政情不安定のため，同年同地で予定していた調査が行えず，２．（１）において国内の臨床心理士 からの資料で研究を行うことになった。しかし，資料の一部欠損はあったものの研究そのものはおおむね順調に進んでおり，来談者中心的認知行動療法のガイドラインの作成に向けて展開していると考えられる。

４．今後の研究の推進方策

２．（４）をさらに進めるために臨床的な事例研究を進めるとともに，成果の公表を行う。また（１）も対象者の幅を拡げることで，さらに信頼できる資料にするように善処する。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 杉山崇・五味美奈子・杉山崇子，心理療法の統合的な構造化に向けた力動的アプローチと認知行動療法における病因論の差異と補完性について，心理相談研究（神奈川大学），2，印刷中，2011，査読あり
② 杉山崇，心理療法の統合的な構造化に向けた力動的アプローチと認知行動療法における病因論の差異と補完性について，心理相談研究（神奈川大学心理相談センター），１，12-24，2010，査読あり
③ 杉山崇，心理臨床の社会的役割と心理学との関係性について，人文研究（神奈川大学人文学研究所），170，23-42，2010，査読なし

〔学会発表〕（計２件）

① 東斉彰・杉山崇・三上謙一・ほか，認知療法の治癒要因，日本認知療法学会第10回大会，2010年9月25日，名古屋・愛知県産業労働センター
② 杉山崇・伊藤絵美・坂本真士，成人男性の抑うつ感と来談者中心的認知行動療法について，日本心理臨床学会第29回大会2010年9月3日，仙台・東北大学河内南キャンパス

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

学術的編著における本課題成果の報告と紹介（計２件）

① 坂本真士・杉山崇・伊藤絵美（編著），臨床に活かす基礎心理学，2010年，東京大学出版会.
② 伊藤絵美・杉山崇・坂本真士（編著），心理臨床への基礎心理学のうまい活かし方，印刷中，金剛出版.

本課題成果を反映した専門事典の項目執筆（計１件）

① 杉山崇，隣接領域とのインターフェース，日本心理臨床学会（編）心理臨床学事典，丸善出版.